平成23年度後半期東北地区産科婦人科学会・医会連絡会　議事録
日時：平成23年3月4日（日）午前10時30分～
場所：江陽グランドホテル4階　「銀河の間」

Ⅰ　東北連合産科婦人科学会役員会
１．議長選出（大槻）
恒例ですと常任委員の東北大学八重樫が担当致しますが、宜しいでしょうか？
→　一同了承
２．開会の挨拶（八重樫）

３．報告事項
（１）新名誉会員該当者、新功労会員推薦者　（豊島）
→　新名誉会員推薦者は宮城県の星和彦先生、新功労会員推薦者は青森県の佐藤重美先生、鍵谷昭文先生、秋田県の樋口誠一先生となっております。

（２）日産婦学会専門医制度中央員会報告　（永瀬）
→　資料2-1をご覧ください。来年度の地方委員会における一次審査は6月1日から15日、二次審査は筆記試験が7月28日、面接試験が29日となっております。
資料3-2をご覧ください。専攻医指導施設の指定基準および区分指定基準が改定となります。以前はA、Bであったものが総合型施設、連携専門医療型施設、連携型施設に変更となる予定です。

質疑応答
（佐藤）資料2-2で鳥取県の平成23年度専攻医登録施設数が0となっている
（永瀬）平成23年度の専攻医登録が0になっているので、更新しなかった可能性がある。
（寺田）施設基準の改定は毎年必要か？分娩数200/年を満たすのがギリギリの施設もある。
（永瀬）申請は毎年必要になる。新施設認定の基準に関しては平成24年度のデータをもとに平成25年度の区分指定基準が決まる。
（藤森）どの区分になるのかは中央委員会で判断されるのか、それとも申請の際に自分で申告するのか？
（永瀬）自分の施設で区分を指定して申請する形になる。

（３）日本産婦人科理事会・総会報告　（八重樫）
　１．名誉会員および功労会員の推薦について→先ほどご報告の通り
　２．理事定数の件→理事定数が23人から25人に増加。これは2年前の総会で決定された事項であり、遂行する必要がある。

３．第 67 回学会集会長に群馬大学の峰岸教授に決定した。

４．第 6 回産婦人科サマースクールに関して→今までは長野県の美ヶ原で行われていたが、今年は東北地方で行えないか依頼したところ盛岡で開催できることになった。8 月 11 日と 12 日に盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡 new wing で行う予定。全国から 300 人前後参加予定。前日にオプション企画として宮古病院の視察の予定があり。

（水沼）追加発現　用語委員会で用語集の改訂版を今年中に完成する予定。大きな変更点としては、子宮頸がんの staging を今までは画像検査を採用しなかったが画像診断も加わる事になった。また妊娠時期の表現に関して国際基準との違いが問題となっていた。1st, 2nd, 3rd trimester の表現を、用語集でも妊娠初期・中期・後期として妊娠時期を表す。小西理事長から、産婦人科医の数がまた少なくなって来ているので、積極的なリクルートが必要。

（岡村）追加発現　理事定数を 25 名にする事は理事会で決定しているが、具体的に増えた 2 名をどの様に全国ブロックに配置するかは現在議論中である。

（４）第 133 回東北連合産科婦人科学会の準備状況　（平野）
→　会場はホテルメトロポリタン秋田、プログラム、講演、シンポジウムの演者は決定している。一般演題の受付期間は締め切られたが、登録演題数が少ないので各大学から積極的な追加演題をお願いしたい。

（５）第 60 回北日本連合産科婦人科学会の準備状況　（倉智）
→　平成 24 年 9 月 8 日・9 日に山形デルサで行う。講演演者は決定した。日産婦明けに演題募集が始まるので、多数の応募をお願いしたい。日産婦の理事会と日程が重なったため、役員会を 9 月 9 日朝に予定している。また宿泊施設が少ないため、学会事務局で多くの宿泊施設をすでに押さえてあるので、学会 HP で発表する。

（議長より）→日産婦の理事会の日程が変わったため、9 月 8 日・9 日ともに役員会は可能であるが、すでに 9 月 9 日で会場を押さえであるので、このまま 9 月 9 日に役員会でよろしいでしょうか？　→特に異論出ず
第 133 回での研修医会を前日に行う事を確認。

（６）第 135 回東北連合産科婦人科学会の準備状況　（倉智）
→　場所は山形テルサで、平成 25 年の 6 月第 1 または第 2 週の土日を予定している。近々に決定しアナウンスする予定である。

協議事項
（1）日産婦地方連絡委員会委員の推薦について　（八重樫）
現在は八重樫が担当しているが、そのままでよいか？
→　一同了承

（2）総会運営委員会ならびに決算委員会委員の推薦について　（八重樫）
→　現在の運営委員は上原先生、決算委員は藤本先生、松田先生が担当されている。平成24年度も同じメンバーでお願いしてよろしいでしょうか？　→　一同了承

（3）次回以降の東北地区産科婦人科学会・医会連絡会の日程について　（八重樫）
→平成24年度前期は6月17日朝に秋田で行う。後半期は3月3日に仙台で行う。

（4）東北連合産科婦人科学会担当県に関して　（八重樫）
（藤森）現在の予定でいくと、平成27年度の東北連合と北日本が共に東北大学の主催となっているため、第137回福島と第139回宮城を交換する話が出ていた。しかし参考資料2の如く元々は金沢医大の次の北日本は福島の順番であるため、63回北日本を福島医大が、65回北日本を東北大学が担当すれば同一年度に重ならなくなる。

（議長より）今までに何らかの事情で順番が変わっていたものが、事務局で確認できていなかった。63回北日本を福島医大、65回北日本を東北大で担当すると問題が解決するが、この案でよろしいか？→特に異論出ず

（5）北日本産科婦人科学会前日のレクリエーションおよび懇親会に関するアンケート結果に関して　（倉智）
→各大学の教授または医局長にレクリエーションに関してアンケートを行った。人的な余裕がない事と女性医師の増加もあり、将来的には野球だけでなくボーリングをレクリエーションとしてもよいのではないか。今年は野球を行う予定であるが、4/19（21%）ではレクリエーションは行わない方が良いという意見もあった。懇親会は重要なので今後も続けた方がよいだろう。

（藤森）個人的意見としてはレクリエーションを続けてほしい。今年の北日本の際の野球では佐藤章記念のトロフィーを用意する予定である。

（議長より）北日本のレクリエーションに関しては東北連合だけでなく、北海道・北陸の意見も必要であるので、再度議論しましょう。

文責：豊島将文（東北大学）